

会計別決算の状況

会計区分	収入	支出	
一般会計	274億5,650万円	264億9,497万円	
特別会計	国民健康保険特別会計	101億9,178万円	101億2,866万円
	老人保健特別会計	1億9,050万円	380万円
	介護保険特別会計	38億5,066万円	38億2,498万円
	後期高齢者医療事業特別会計	6億3,450万円	6億3,148万円
	鶴瀬駅西口土地区画整理事業特別会計	8億2,905万円	6億5,272万円
	鶴瀬駅東口土地区画整理事業特別会計	4億7,123万円	4億2,599万円
水道事業会計	23億2,872万円	21億7,317万円	
下水道事業会計	28億1,638万円	27億 239万円	

平成21年度 決算のあらまし

平成21年度の一般会計決算額は、収入が274億5,650万円で、前年度に比べ2億5,971万円増加し、支出は264億9,497万円で、前年度に比べ4億5,153万円の増加となりました。収入と支出の差引額は9億6,153万円になりましたが、このうち1億2,963万円は平成22年度に繰越しとなった事業に使われます。

収入のうち市税は、景気の低迷などにより市民税が72億2,058万円となり、前年度に比べ2億8,802万円減少しました。一方で国からの収入は、経済対策などにより16億3,394万円増加しました。また、支出の節約などにより借入金を当初の予定より減らしました。

支出は、生活保護費などの社会保障費が増加となったほか、定額給付金や地域活性化事業など国の経済対策による支出が大きく、一方で行財政改革などの推進により、職員などの人件費や借入金の返済額が減少しました。

政策財務課 ㊟231

平成21年度決算に基づく健全化判断比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」で定められた4つの指標（健全化判断比率）は、早期健全化や財政再生が必要な状況かどうか把握するものですが、富士見市ではどの指標も基準値を下回り、健全な財政状況と言えます。

	本市の比率	早期健全化 団体基準値	財政再生 団体基準値
①実質赤字比率	-(赤字額なし)	12.58	20.00
②連結実質赤字比率	-(赤字額なし)	17.58	40.00
③実質公債費比率	8.80	25.00	35.00
④将来負担比率	53.90	350.00	

①実質赤字比率

一般会計などの収入と支出の不足額(赤字)の割合を示す指標です。

②連結実質赤字比率

①の一般会計に加え水道事業会計などの赤字を加えた指標です。

③実質公債費比率

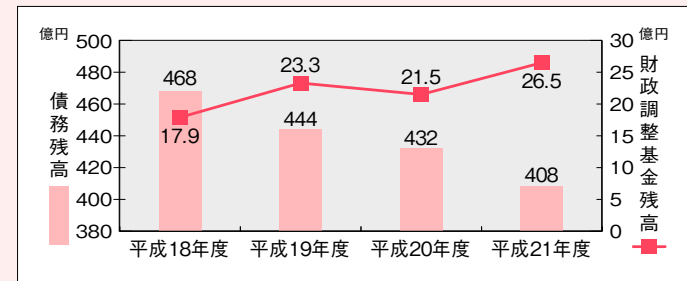
市の標準財政規模に対し、市のすべての会計と市が関連する一部事務組合などの債務(借金返済額)の割合を示す指標です。

④将来負担比率

将来見込まれる債務が市の標準財政規模の何倍あるかを示す指標です。

債務と財政調整基金の残高の推移

表の債務は市のすべての借入金と債務負担行為額(将来の支払いが約束されている土地購入費など)の合計です。平成18年度末では468億円でしたが、平成21年度末には408億円となり、市債の借入を抑制した効果などで債務は着実に減少しています。市の預金である財政調整基金は、平成20年度末から5億円増加し、平成21年度末で26億5千万円を確保しています。



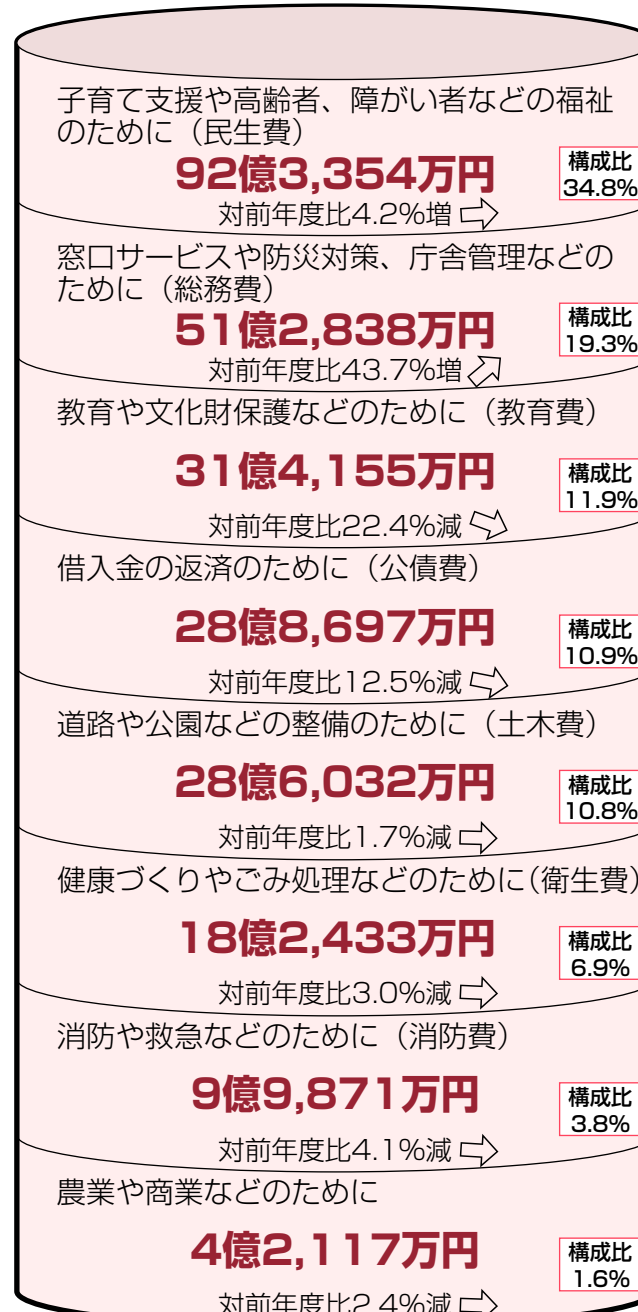
一般

収入総額 274億5,650万円



会計

支出総額 264億9,497万円



平成21年度に実施した主な事業

【民生費】

- 諏訪第2・ふじみ野第2放課後児童クラブの整備
- 障がい者就労支援センターの新設
- 老人福祉センターの耐震診断を実施
- 在宅ケア支援者の養成



【総務費】

- 市ホームページのリニューアル
- 市の長期的将来ビジョンとなる第5次基本構想の策定に着手
- 事業仕分けの実施
- 市民相談内容の拡充



【教育費】

- つるせ台小学校のグラウンド整備
- 小・中学校などにパソコンを増設
- 地域子ども教室をすべての小学校で実施
- 小・中学校を巡回し教育相談を実施
- 小・中学校体育館の耐震工事



【土木費】

- 市道第5104号線(勝瀬交差点付近)の整備
- つるせ台公園の設計の実施
- 鶴瀬駅西口・東口周辺の道路、下水道の整備
- 水子・諏訪の旧暫定逆線引き地区の市街化区域再編入の取組み



【衛生費】

- マンモグラフィによる乳がん検診対象年齢を拡大
- 女性特有がん検診のクーポン券の配布
- 新型インフルエンザワクチンの接種費用を助成
- 障がい者や高齢者を対象にごみの個別収集を実施

【農業費、商工費など】

- 市内の農産物を紹介する農業マップの作成
- 商店街の街路灯電灯料の補助の拡大